

農家の工夫を知って

スペインマドリッド日本人学校

六年 鎌倉 美湖

「ああ、また、カボチャ、実らなかった。」

「どうしてだろう。病気になってしまったんだね。」

母と話しながら考えた。もし、わたしが農家だったら、作物が病気になった時、こんな会話では済まない。そんなことにならないために、農薬があるのだと思う。

農薬を使う量をなるべく少なくしようとしている農家もあるそうだ。実際に、農薬を全く使わずに栽培するのは、すごく難しいのだそうだ。有機栽培には、本当に手間がかかる。また、有機栽培のみかんは、皮が黒ずんでいたりと、傷ついたりすることもある。けど、安心して食べることができる気がする。そして、食べるとすごくおいしいのだそうだ。

「果実がなつてからは農薬を使わない」という栽培に取り組んでいる人もいる。あるいは、インゴ農家の方は、「マメコバチ」というハチを利用して、受粉をさせるだけではなく、害虫を減らすことができ、殺虫剤の使用を減らせるそうだ。

インターネットでも調べたが、このように、農薬を減らすためにいろんな工夫をしている農家があることを知り、すごいと思った。これには、すごく勇気がいると思う。病気や害虫のせいで、収穫が減ったり、傷が付いたりする可能性があるからだ。

だから、くだものを買う人が、どのようなものを選ぶか、よく考えることが必要だと思っただ。ちょっとした傷があるだけで、みんないやがる。だからこそ、農薬等をたくさん使う必要が出てくるのだ。「くだものにちょっとした傷があるのは当たり前」とみんなが思うようになれば、農薬を減らす農家が増えてくる。つまり、わたしたちの意識を変えることこそが、農薬を減らす工夫する農家を、応援することにつながるのだ。